

霞ヶ浦の湖陸風に関する研究

総括：河村 武

研究担当者 教授 河村 武（地球科学系）
講師 田宮 兵衛（地球科学系）
小林 守（環境科学研究科）

霞ヶ浦周辺域では、一般風が弱いときに湖陸風が発達することは、河村のこれまでの研究で明らかであるが、その立体構造、湖風の吹き出しとその影響の範囲、湖風と一般風との関連、土浦市のヒートアイランドと湖陸風の相互作用などの詳細は明らかでない。しかも、霞ヶ浦の湖陸風は、研究学園都市を含む地域の大気環境を考える上でも重要な要素の一つである。

そこで、その実態を明らかにする目的で、1979年3月はじめ、5日間にわたって土浦市のヒートアイランドおよび霞ヶ浦の湖陸風の予備的な観測を行った。その結果は現在解析中であるが、これにもとづいて、1979年8月に再度観測を計画している。なお本研究は筑波大学、学内プロジェクト研究“筑波の環境”の一部である。